



TITLE:

# ある代数的対応の全射性について (Analytic Varieties および Stratified spaces における諸問題)

AUTHOR(S):

寺杣, 友秀

---

CITATION:

寺杣, 友秀. ある代数的対応の全射性について (Analytic Varieties および Stratified spaces における諸問題). 数理解析研究所講究録 1987, 634: 294-306

ISSUE DATE:

1987-12

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/100075>

RIGHT:

# ある代数的対応の全射性について

東大理 寺松友秀

## § 1 Introduction.

Felix Klein による quadratic complex の理論は、([1] 参照) 様々な意味で一般化、アトロジーがなされてきた。

Reid による  $\mathbb{P}^{2g+1}$  内の non-singular な  $(2, 2)$  complete intersection に関する結果もそのうちの 1 つである。

Theorem 1 (Reid)  $\mathbb{C} \subset \alpha$  non-singular な  $(2, 2)$  complete intersection ( $\mathbb{P}^{2g+1}$  内  $\alpha$ )

$$\begin{cases} x_1^2 + \dots + x_{2g+2}^2 = 0 \\ \lambda_1 x_1^2 + \dots + \lambda_{2g+2} x_{2g+2}^2 = 0 \end{cases} \quad (\lambda_i \neq \lambda_j \text{ for } i \neq j)$$

の中間 Jacobi 多様体は、hyper elliptic curve

$$C: y^2 = \prod_{i=1}^{2g+2} (x - \lambda_i) \text{ の Jacobi 多様体と同型になる。}$$

また  $T = \psi$  と類似の結果が  $\mathbb{P}^{2g}$  内の  $(2, 2, 2)$  complete intersection について (Beauville),  $\mathbb{P}^{2g+1}$  内の  $(2, 2, 2)$  complete intersection について (岡井, O'Grady) も得られている。

Theorem 2 (Beauville)  $\mathbb{P}^{2g}$  内の generic な  $(2, 2, 2)$  complete

intersection  $X$  に対して、ある plane curve  $\Sigma$  と  $\Sigma$  の double covering  $\tilde{\Sigma}$  が存在して、 $X$  の intermediate Jacobian が Prym variety  $\text{Prym}(\tilde{\Sigma}/\Sigma)$  と同型になる。

Theorem 3 (O'Grady)  $\mathbb{P}^{2g+1}$  内の  $(2, 2, 2)$  complete intersection  $X$  に対してある  $\mathbb{P}^2$  の double covering  $W$  が存在して、 $X$  の中間次元の primitive cohomology と、 $H^2(W, \mathbb{Q})/H^2(\mathbb{P}^2, \mathbb{Q})$  は、 $\mathbb{Q}$ -Hodge structure として同型になる。(O'Grady は、もう少しくわしく、 $\mathbb{Z}$ -係数で見ている)

この様に、quadric hypersurface の complete intersection は、ある種の double covering と関連づけるのではないかという自然な問に到達するのである。

この報告では、 $\mathbb{P}^{2g+1}$  内の  $(2, \dots, 2)$  complete intersection ( $T=T'$  とし  $m < 2g$ ) について、ある意味以上の結果を一般化することを目指す。  $\mathbb{P}^{2g}$  内の complete intersection の時も同様の事が formalism を変えて成立する。しかし簡単のため、今回は、 $\mathbb{P}^{2g+1}$  内の quadric の complete intersection について考えることにする。この報告における主定理は、§4 に出てくる。§2、§3 はそのための準備である。§3 は、筆者の Fermat hyper surface の complete intersection に関する duality

と関連深く、その結果を引用する。

§ 2.  $\mathbb{P}^{2g+1}$  内の quadric の family について.

$k$  を  $\text{char } k \neq 2$  なる代数閉体とする。  $Q_1, \dots, Q_{m+1}$  を変数  $x_1, \dots, x_{2g+2}$  に関する 2 次形式とする。 ( $1 \leq m < 2g$ )

$X = \{Q_1 = \dots = Q_{m+1} = 0\}$  は  $(m+1)$  個の quadric hypersurface ( $\subset \mathbb{P}^{2g+1}$ ) の complete intersection として与えられるものとする。

$\mathbb{P}^m$  の点  $\lambda = (\lambda_1, \dots, \lambda_{m+1})$  に対応して  $Q_\lambda$  を

$Q_\lambda = \{\lambda_1 Q_1 + \dots + \lambda_{m+1} Q_{m+1} = 0\}$  で定義する。以下  $\lambda$  が generic の時、 $Q_\lambda$  が nonsingular であると仮定する。

quadric の family  $\mathcal{X}$  を、 $\mathcal{X} = \{(x, \lambda) \in \mathbb{P}^{2g+1} \times \mathbb{P}^m \mid x \in Q_\lambda\}$  と

$\Sigma \subset \mathbb{P}^m$  を  $\Sigma = \{\lambda \in \mathbb{P}^m \mid Q_\lambda \text{ は singular}\}$  によって定義する。  $f, \gamma$

をそれぞれ、 $\mathcal{X}$  から  $\mathbb{P}^m$ 、及び  $\mathbb{P}^{2g+1}$  への第 2 及び第 1 射影によ

り induce されるものとする。  $U = \mathbb{P}^m - \Sigma$ ,  $\mathcal{X}^0 = f^{-1}(U)$ ,  $f^0 = f|_{\mathcal{X}^0}$

とし、 $U$  上の sheaf  $F$  を、 $F = \text{Coker}(R^{2g} \text{pr}_2^* \mathcal{O}_U \rightarrow R^{2g} f_*^0 \mathcal{O}_{\mathcal{X}^0})$

で定義する。  $\pi = \gamma \circ \text{pr}_2$  とし、第 2 射影  $\mathbb{P}^{2g+1} \times U \rightarrow U$  である。

偶数次元の quadric の cohomology の構造から  $F$  は rank 1 の

$U$  上の smooth sheaf となる。  $\mathcal{Y}$  を family  $\mathcal{X}$  内の  $g$  次元

linear space の族  $\mathcal{Y} = \{(\ell, \lambda) \mid \lambda \in \mathbb{P}^m, \ell \in \text{Grass}(\mathbb{P}^{2g+1}, \mathbb{P}^g), \ell \subset Q_\lambda\}$

とする。  $\mathcal{Z} \subset \mathcal{X} \times \mathbb{P}^m \mathcal{Y}$  を、 $\mathcal{X}$  内の universal 2g linear space

$\mathcal{Z} = \{(\lambda, \ell, \lambda) \mid \ell \subset Q_\lambda\}$  とする。この時、次の diagram

が得られる。

$$\begin{array}{ccccc} \mathcal{Z} & \longrightarrow & \mathcal{X} \times_{\mathbb{P}^m} \mathcal{Y} & \xrightarrow{\text{pr}_2} & \mathcal{Y} \\ & & \downarrow \text{pr}_1 & & \downarrow g \\ & & \mathcal{X} & \xrightarrow{f} & \mathbb{P}^m \end{array}$$

$g$  a Stein factorization  $\mathcal{Y} \rightarrow W \xrightarrow{\pi} \mathbb{P}^m$  と可なり。  $\pi$  は  $\mathbb{P}^m$  の double covering となる。

Proposition 1. 次の同型がある代数的対応より得られる。

$$\Phi: (\pi_* \mathcal{O}_{\mathcal{Z}} / \mathcal{O}_{\mathcal{Z}})|_U \xrightarrow{\cong} F(g)$$

Proof.  $U$  上の map  $\varepsilon$  は  $W$  と  $\mathcal{X}$  の間にあり、  $U$  上の代数的対応から構成される。  $W^\circ = \pi^{-1}(U)$ ,  $\mathcal{Y}^\circ = g^{-1}(U)$ ,  $\tilde{\mathcal{X}}^\circ = W^\circ \times_{\mathbb{P}^m} \mathcal{X}$ ,  $\tilde{\mathcal{Z}}^\circ = W^\circ \times_{\mathbb{P}^m} \mathcal{Z}$  とおくと、次の commutative diagram が得られる。  $\tilde{f}$ ,  $\tilde{g}$  は下のものとする。

$$\begin{array}{ccccc} \tilde{\mathcal{Z}}^\circ & \longrightarrow & \tilde{\mathcal{X}}^\circ \times_{W^\circ} \mathcal{Y}^\circ & \longrightarrow & \mathcal{Y}^\circ \\ & & \downarrow \iota & & \downarrow \tilde{g} \\ & & \tilde{\mathcal{X}}^\circ & \xrightarrow{\tilde{f}} & W^\circ \end{array}$$

$a \in \tilde{g}$  の relative dimension とする時、  $\tilde{\mathcal{Z}}^\circ$  は以下の様に  $\mathcal{Z}$  の  $R^{2a} \tilde{g}_* \mathcal{O}_{\mathcal{Z}}$  から  $(\pi|_{W^\circ})^* F(g-a) \wedge a$  上の homomorphism を定める。

$$\begin{aligned}
R^{2a} \tilde{g}_* \mathbb{Q}_\ell &\xrightarrow{pr_2^*} R^{2a} (\tilde{f} \times \tilde{g})_* \mathbb{Q}_\ell \xrightarrow{\cup [\tilde{\mathcal{L}}^\circ]} R^{2g+2a} (\tilde{f} \times \tilde{g})_* \mathbb{Q}_\ell(g) \\
&\xrightarrow{\tilde{g}_*} R^{2g} \tilde{f}_* \mathbb{Q}_\ell(g-a) \cong (\pi|_{W^0})^* R^{2g} \tilde{f}_* \mathbb{Q}_\ell(g-a) \\
&\longrightarrow (\pi|_{W^0})^* F(g-a)
\end{aligned}$$

fiberic の考察をする事によりこの  $R^{2a} \tilde{g}_* \mathbb{Q}_\ell \rightarrow (\pi|_{W^0})^* F(g-a)$  は同型であることがわかる。  $R^{2a} \tilde{g}_* \mathbb{Q}_\ell \cong \mathbb{Q}(-a)$  となる。 したがって  $F \rightarrow (\pi|_{W^0})_* \mathbb{Q}_\ell(-g)$  なる map を得る。 したがって  $F \rightarrow ((\pi|_{W^0})_* \mathbb{Q}_\ell / \mathbb{Q}_\ell)(-g)$  を得るが、再び fiberic の考察をして、これが同型であることがわかる。 Q.E.D.

± 2 の同型を用いて、

$$\begin{aligned}
H^m(\mathbb{P}^m, \pi_* \mathbb{Q}_\ell / \mathbb{Q}_\ell) &\cong H_c^m(U, (\pi|_{W^0})_* \mathbb{Q}_\ell / \mathbb{Q}_\ell) \\
&\longrightarrow H_c^m(U, F(g)) \longrightarrow H_c^m(U, R^{2g} \tilde{f}_* \mathbb{Q}_\ell)(g) \\
&\longrightarrow H^m(\mathbb{P}^m, R^{2g} \tilde{f}_* \mathbb{Q}_\ell)(g)
\end{aligned}$$

なる map を得る。 したがって

$$(*) \quad H^m(W, \mathbb{Q}_\ell) \longrightarrow H^m(\mathbb{P}^m, R^{2g} \tilde{f}_* \mathbb{Q}_\ell)(g)$$

なる homomorphism を得る。

§3 Diagonal type  $a$  場合.

$Q_i = \sum_{j=1}^{2g+2} a_{ij} x_j^2$  と表わせる場合 (= 4.2. 以下 diagonal type という) について.  $S$  を構成した map

$$(*) H^m(W, \mathbb{Q}_\ell)^- \longrightarrow H^{2g}(\mathbb{P}^m, R^{2g} f_* \mathbb{Q}_\ell)(g)$$

を構成しよう. この部分は. Arithmetic Algebraic Geometry 報告集「Complete intersections of Fermat hyper surfaces」と関連深いので. 2.1 にあることと引用しつつ  $(*)$  の map について考察する.

$L^*$  を  $V = \bigoplus_{i=1}^{2g+2} \mathbb{Z} e_i$  内で  $\sum_{j=1}^{2g+2} a_{ij} e_j$  ( $i=1, \dots, m+1$ ) を生成する subspace と可視する.  $L^*$  の射影化  $\mathbb{P}(L^*)$  は  $\mathbb{P}^{2g+1} \cong \mathbb{P}(V)$  の sublinear space と同一視される.  $\pi \in \mathbb{P}^{2g+1}$  の  $\bar{\pi} (x_1 : \dots : x_{2g+2}) \in \mathbb{P}^{2g+1}$  の  $\bar{\pi} (x_1^2 : \dots : x_{2g+2}^2) \in \mathbb{P}^{2g+1}$  に送る map,  $X^*(A)$  を  $\pi^{-1}(\mathbb{P}(L^*))$  で定義する.  $X^*(A)$  には.

$(\mathbb{Z}/2)^{2g+2} / \langle (1, \dots, 1) \rangle$  が  $\bar{\pi} (0, \dots, \overset{\cdot}{1}, \dots, 0)$  が  $x_i \mapsto -x_i$  へ,  $x_j$  ( $j \neq i$ ) を  $x_j$  へ送ることにより作用する. ことから  $H$  は  $X^*(A)$  に作用する.  $\chi_0$  を  $H$  の character で  $\chi_0(\sigma_i) = -1$  ( $\forall i$ ) を満たす character とする.  $\sigma_i = (0, \dots, \overset{\cdot}{1}, \dots, 0)$  である.

Diagonal type の場合.  $H$  は同様の作用により  $X$  に作用する.

Lemma 1  $X^*(A) / \text{Ker } \chi_0$  は.  $X^*(A) / H \cong \mathbb{P}^m$  の double covering であるが. これは  $\mathbb{P}^m$  の double covering として.

$W$  と同型である。

証明略

Lemma 2 (duality Theorem) ある代数的対応により

$$(1) \quad H^m(X^*(A), \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \otimes H^{2g}(X^{2g}_2, \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \\ \xrightarrow{\cong} H^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell)(x_0)$$

なる同型が得られる。ここで  $X^{2g}_2$  は、2 次の  $(2g)$  次元の Fermat hyper surface  $x_1^2 + \dots + x_{2g+2}^2 = 0$  である。

証明は、Arithmetic Algebraic Geometry の報告集を参照して頂きたい。

± 2. quadric hyper surface の構造について  $H^{2g}(X^{2g}_2, \mathbb{Q}_\ell)(x_0)$  はある  $X^{2g}_2$  内の  $g$  次元 linear space  $l$  の cohomology 類  $[l]$  によって生成されることを示す。ここで  $l$  を fix する。

$$(2) \quad H^m(W, \mathbb{Q}_\ell)(-g) \cong H^m(X^*(A), \mathbb{Q}_\ell(-g))(x_0) \\ \xrightarrow{\otimes [l]} H^m(X^*(A), \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \otimes H^{2g}(X^{2g}_2, \mathbb{Q}_\ell)(x_0)$$

この map を得る。まず  $f$  に関する Leray の Spectral sequence より、 $H^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \cong H^m(\mathbb{P}^m, R^{2g} f_* \mathbb{Q}_\ell(x_0))$  と表すか



5.

$$(3) \quad H^{2g+m}(\pi, \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \longrightarrow H^m(\mathbb{P}^m, R^{2g}f_* \mathbb{Q}_\ell)(x_0)$$

を得る。

Proposition 2  $\ell \nmid g$  と  $\ell \nmid m$  ならば, (1), (2), (3) の合成 map

$$H^m(W, \mathbb{Q}_\ell)(-g) \longrightarrow H^m(X^*(A), \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \otimes H^{2g}(X^{2g}_2, \mathbb{Q}_\ell)(x_0)$$

$$\longrightarrow H^{2g+m}(\pi, \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \longrightarrow H^m(\mathbb{P}^m, R^{2g}f_* \mathbb{Q}_\ell)(x_0)$$

は, (\*) となる map と一致する。

Proof 二つは, (\*) の map の定義, 及び, (1) の map の定義に反するところはない。この証明は, 論文 [2] に参照せよ。

Corollary 1. Diagonal type の場合, map (\*) の image は

$$H^m(A, \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \otimes H^{2g}(X^{2g}_2, \mathbb{Q}_\ell)(x_0) \text{ と一致する。}$$

§4 ある代数的対応の全射性について.

記号は今までの通りとする。  $H_{\text{prim}}^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell)$ ,  $H_{\text{prim}}^{2g-m}(X, \mathbb{Q}_\ell)$  を以下の様に定義する。

$$H_{\text{prim}}^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell) = \text{Coker}(H^{2g+m}(P^{2g+1} \times P^m, \mathbb{Q}_\ell) \rightarrow H^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell))$$

$$H_{\text{prim}}^{2g-m}(X, \mathbb{Q}_\ell) = \text{Coker}(H^{2g-m}(P^{2g+1}, \mathbb{Q}_\ell) \rightarrow H^{2g-m}(X, \mathbb{Q}_\ell))$$

これからある代数的対応から得られる homomorphism

$$(4) \quad H^m(W, \mathbb{Q}_\ell(-g))^\perp \longrightarrow H_{\text{prim}}^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell)$$

$$(5) \quad H^{2g-m}(X, \mathbb{Q}_\ell(-m)) \longrightarrow H_{\text{prim}}^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell)$$

を構成しよう。まず  $f: X \rightarrow P^m$  に関する Leray の spectral sequence

$$E_2^{i,j} = H^i(P^m, R^j f_* \mathbb{Q}_\ell) \Rightarrow H^{i+j}(X, \mathbb{Q}_\ell) = E^{i+j}$$

において  $\sum_{j=0}^{2g-1} \dim E_2^{m+2g-j,j}$  は、 $m$  が偶数の時  $g$ ,  $m$  が奇数の時  $0$  となる。他方 Weak Lefschetz Theorem により、

$$\dim F^{m+1} H^{2g+m}(P^{2g+1} \times P^m, \mathbb{Q}_\ell) \leq \dim F^{m+1} H^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell)$$

となる。  $\dim F^{m+1} H^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell) \leq \sum_{j=0}^{2g-1} \dim E_2^{m+2g-j,j}$  と合

わせよう。自然な準同型  $F^{m+1} H^{2g+m}(P^{2g+1} \times P^m, \mathbb{Q}_\ell) \rightarrow$

$F^{m+1} H^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell)$  へは、同型となることはわかった。これから

$$E_\infty^{m,2g} \rightarrow H_{\text{prim}}^{2g+m}(X, \mathbb{Q}_\ell) \text{ なる map を得る。}$$

また、weight の評価はやはり、任意の  $r \geq 2$  に対して、

$$E_r^{m,2g} \rightarrow E_r^{m+r,2g-r+1} \text{ は } 0 \text{ map である。} E_2^{m,2g} \rightarrow E_\infty^{m,2g} \text{ を}$$

得る。(\*) なる map を合成しよう。

$$H^m(W, \mathbb{Q}_\ell(-g)) \rightarrow H^m(\mathbb{P}^m, R^{2g} f_* \mathbb{Q}_\ell) = E_\infty^{m, 2g}$$

$$\rightarrow E_\infty^{m, 2g} \rightarrow H_{\text{prim}}^{2g+m}(\mathfrak{X}, \mathbb{Q}_\ell)$$

対応 map を得る。これは (4) の準同型である。

次に (5) の準同型を定義する。  $\varphi: \mathfrak{X} \rightarrow \mathbb{P}^{2g+1}$ ,

$\text{pr}_1: \mathbb{P}^{2g+1} \times \mathbb{P}^m \rightarrow \mathbb{P}^{2g+1}$  に関する Leray の Spectral sequence  $E$ .

$$E_2^{i,j} = H^i(\mathbb{P}^m, R^j \varphi_* \mathbb{Q}_\ell) \Rightarrow E^{i+j} = H^{i+j}(\mathfrak{X}, \mathbb{Q}_\ell)$$

$$'E_2^{i,j} = H^i(\mathbb{P}^m, R^j \text{pr}_{1*} \mathbb{Q}_\ell) \Rightarrow 'E^{i+j} = H^{i+j}(\mathbb{P}^{2g+1} \times \mathbb{P}^m, \mathbb{Q}_\ell)$$

とする。  $u \in \mathbb{P}^{2g+1}$  に対し

$$\varphi^{-1}(u) \cong \begin{cases} \mathbb{P}^m & u \in X \\ \mathbb{P}^{m-1} & u \notin X \end{cases}$$

に對する

$$R^j \varphi_* \mathbb{Q}_\ell \cong \begin{cases} 0 & j \text{ odd 又は } j \geq 2m+1 \\ \mathbb{Q}_\ell(-\frac{j}{2}) & j \text{ even かつ } j \leq 2m-1 \\ \mathbb{Q}_\ell(-m) & j = 2m \end{cases}$$

を得る。(4) の homomorphism を定義した時と同様に

$$F^{2g-m+1} H^{2g+m}(\mathbb{P}^{2g+1} \times \mathbb{P}^m, \mathbb{Q}_\ell) \rightarrow F^{2g-m+1} H^{2g+m}(\mathfrak{X}, \mathbb{Q}_\ell)$$

は同型であることがわかる。ゆえに

$$E_\infty^{2g-m, 2m} / 'E_\infty^{2g-m, 2m} \rightarrow H_{\text{prim}}^{2g+m}(\mathfrak{X}, \mathbb{Q}_\ell) \text{ 対応 map を得}$$

ゆえに  $H_{\text{prim}}^{2g-m}(\mathfrak{X}, \mathbb{Q}_\ell(-m)) \rightarrow H_{\text{prim}}^{2g+m}(\mathfrak{X}, \mathbb{Q}_\ell)$  対応 map

を得る。これは (5) の homomorphism である。

Remark  $X$  が smooth な時. Spectral sequence  $E$  は.  
 $E_2$  term で  $\mathbb{Q}$  化して.  $E_2^{i,j} = E_\infty^{i,j}$  となる.  $\forall i = 'E_2^{i,j} = 'E_\infty^{i,j}$   
 より 自然な morphism  $'E_2^{i,j} \rightarrow E_2^{i,j}$  は  $j \neq 2m$  の時は同型で  
 あることを考えると.

$$\text{Coker}('E_2^{2g-m, 2m} \rightarrow E_2^{2g-m, 2m}) \cong \text{Coker}('E^{2g+m} \rightarrow E^{2g+m})$$

となる。このことから.  $X$  が smooth ならば. (5) は. 同型になる。  
 すると.  $X$  が smooth な時は. ある代数的対応により.

$$(6) \quad H^m(W, \mathbb{Q}_\ell(-g))^\sim \rightarrow H^{2g-m}(X, \mathbb{Q}_\ell(-m))$$

なる map が構成される。

Theorem 4  $Q_1, \dots, Q_{m+1}$  が互いに代数的に独立 (= generic) であるとする。この時上の様に定義した. 代数的対応から.  
 以下が成り立つ homomorphism

$$(6) \quad H^m(W, \mathbb{Q}_\ell(-g))^\sim \rightarrow H^{2g-m}(X, \mathbb{Q}_\ell(-m))$$

は全射である。

Proof  $\exists$  strictly henselian discrete valuation ring  $R$  上  
 で. (4), (5) の correspondence を考える。  $\eta \in \text{Spec } R$  を generic  
 point  $\bar{\eta} \in \eta$  を a geometric point,  $s \in \text{closed point}$  とす  
 る。この時.  $\bar{\eta}$  の specializations の commutative  
 diagram が成り立つ。

$$\begin{array}{ccccc}
 H^m(W_{\bar{\eta}}, \mathcal{Q}_e(-g))^- & \longrightarrow & H_{\text{prim}}^{2g+m}(X_{\bar{\eta}}, \mathcal{Q}_e) & \xleftarrow{e_{\bar{\eta}}} & H_{\text{prim}}^{2g-m}(X_{\bar{\eta}}, \mathcal{Q}_e(-m)) \\
 \uparrow \text{sp}_W & & \uparrow \text{sp}_X & & \uparrow \text{sp}_X
 \end{array}$$

$$H^m(W_0, \mathcal{Q}_e(-g))^- \longrightarrow H_{\text{prim}}^{2g+m}(X_0, \mathcal{Q}_e) \xleftarrow{e_0} H_{\text{prim}}^{2g-m}(X_0, \mathcal{Q}_e(-m))$$

今  $\text{Spec } R$  上の quadric の family  $\mathcal{Z}$ ,  $\bar{\eta} \in \mathcal{Z}$  かつ  $Q_1, \dots, Q_{m+1}$  は代数的に独立で,  $s \in \mathcal{Z}$  かつ §3 の Diagonal type になるものを考える。この時,  $e_{\bar{\eta}}, e_s$  は同型である。(6) の map 是  $s$  上の fiber で考えれば nontrivial である  $\mathcal{Z}$ , (6) の map 是  $\bar{\eta}$  上の fiber で考えれば時もやはり nontrivial である。

次に  $\mathbb{P}^1$  上の family  $\mathcal{Z}$ , generic geometric fiber  $Q_1, \dots, Q_{m+1}$  が代数的に独立で, しかも  $\mathbb{P}^1$  上の family  $X$  が Lefschetz pencil になるものを考える。この時, Deligne の Monodromy の結果 ([3]) により,  $H_{\text{prim}}^{2g-m}(X_{\bar{\eta}}, \mathcal{Q}_e)$  は  $\text{Gal}(\bar{\eta}/\eta)$  module として既約である。これから (6) の map 是  $Q_1, \dots, Q_{m+1}$  が代数的に独立の時は全射になる。Q.E.D.

Corollary 2.  $m=1$  の時,  $m=2$  の時は, (6) の map 是同型である。

Proof (6) の準同型の両側の次元を計算すると,  $m=1$  の時は共に  $2g$ ,  $m=2$  の時は共に  $4g^2+2g+1$  で一致している。Theorem より全射であることがわかっていいるので, 同型である。

Ⅱ型となる。

Remark  $m=1$  の時は, Reid の結果に,  $m=2$  の時は, O'Grady の結果  $\Rightarrow \mathbb{Q}$  テンソル  $\cup$   $T$  も  $\alpha$  に  $\bar{\alpha}$  といふ。

### 参考文献

- [1] Griffith-Harris: Principles of Algebraic Geometry, John Wiley and Sons (1978)
- [2] T. Terasoma: Complete intersections of hyper surfaces, Doctoral thesis
- [3] P. Deligne: La conjecture de Weil II. Publ. I.H.E.S. 52 (1980)
- [4] M. Reid: The complete intersections of two or more quadrics, Thesis
- [5] K. G. O'Grady: The Hodge structure of the intersection of three quadrics in odd dimensional projective space: Math. Ann. 273 (1986)
- [6] A. Beauville: Prym varieties and the Schottky problem. Inv. Math. 41 (1977)